

マキノノゾミ代表作に水田航生、霧矢大夢ら実力派俳優が出演 2021年1月上演『東京原子核クラブ』出演キャスト決定！

ニュース記事ご紹介のお願い

貴社ますますご清栄の事とお喜び申し上げます。

株式会社アイオン、びあ株式会社、有限会社オフィス・マキノは2021年1月、本多劇場にて、マキノノゾミ氏の戯曲『東京原子核クラブ』を上演します。

1980年代に大きく広がった小劇場ブームでは、数多くの名作戯曲が生まれました。その名作戯曲を、今新たによみとき、上演する第一弾として、マキノノゾミ作『東京原子核クラブ』を上演致します。本作品は1997年の初演時に読売文学賞戯曲・シナリオ賞を受賞しており、今回はマキノ本人が22年ぶりに演出も手掛けます。本公演ではワークショップ・オーディションを実施し、多彩なキャストがそろいました。

昭和初期。舞台は、風変りな住人が集う東京・本郷の下宿屋「平和館」。理化学研究所に勤務する若き原子物理学者・友田晋一郎は論文が先をこされ自信を失っています。

そんな中、平和館に訪れた海軍中尉・狩野は理研の研究で新型爆弾がつくれるのではないかと思います。

実在の人物をモデルに、時代の荒波の中、闘いに生きる若者たちを描いた群像劇です。

主演の友田晋一郎役には、『ウエスト・サイド・ストーリー』や『怪人と探偵』など話題のミュージカル作品への出演で注目を集める

水田航生、神出鬼没の謎の女・箕面富佐子役には元宝塚歌劇団月組トップスターで、ミュージカルからストレートプレイまで意欲的に取り組み評価の高い **霧矢大夢**が決定。平和館の大家・大久保に第三舞台を経て舞台、映画、ドラマで幅広い役柄を自在に演じ分ける**小須田康人**、友田の師匠である西田教授には文学座所属で柔軟自在の実力派・**浅野雅博**と2人のベテランが支えます。ほかに、2.5次元舞台で活躍する正統派・**久保田秀敏**、マキノ演出「オーファズ」で好評を博した**加藤虎ノ介**、大劇場から小劇場まで強い印象を残す**石田佳央**、文学座の期待の新鋭・**平体まひろ**と、堅実さと熱さを合わせもつ**上川路啓志**、俳優座を経てマキノの信頼も厚い**荻野祐輔**、劇団「柿喰う客」「青年団」所属の**大村わたる**、期待の新人・**石川湖太郎**と多彩な俳優が決定しました。

このニュースのご紹介を**2020年10月22日（木） 昼12:00情報解禁**にてご検討いただきますよう宜しくお願い申し上げます。



※写真注釈※

＜並び左より＞
水田航生 霧矢大夢

＜公演概要＞

【公演タイトル】東京原子核クラブ

【日程】2021年1月10日(日)～1月17日(日)全11ステージ(予定)

1月10日(日) 14:00
1月11日(月・祝) 13:00 / 18:00
1月12日(火) 19:00
1月13日(水) 14:00 / 19:00
1月14日(木) 19:00
1月15日(金) 14:00
1月16日(土) 13:00 / 18:00
1月17日(日) 13:00

【会場】本多劇場（住所：東京都世田谷区北沢2-10-15）

【出演】水田航生、大村わたる、加藤虎ノ介、平体まひろ、霧矢大夢、
上川路啓志、小須田康人、石田佳央、荻野祐輔、
久保田秀敏、浅野雅博、石川湖太郎（登場順）

【入場料】全席指定7,700円、配信チケット3,500円 ※税込

【チケット発売】2020年12月上旬予定

【チケット発売プレイガイド】

■チケットぴあ

<https://w.pia.jp/t/genshikakukurabu/> Pコード：503-153

■Confetti（カンフェティ）

<http://confetti-web.com/genshikaku>

0120-240-540 通話料無料・オペレーター対応（平日10:00～18:00）

■イープラス

<https://eplus.jp/tokyogenshikakuclub/>

【問い合わせ先】

＜公演に関する＞東京原子核クラブインフォメーション genshikakukurabu@gmail.com

＜チケットに関する＞チケットぴあインフォメーション 0570-02-9111（10:00～18:00）

【主催】アイオン／びあ／オフィス・マキノ

<出演者（役名）> 登場順



水田航生
(友田晋一郎)



大村わたる
(橋場大吉)



加藤虎ノ介
(早坂一平)



平体まひろ
(大久保桐子)



霧矢大夢
(箕面富佐子)



上川路啓志
(武山真先)



小須田康人
(大久保彦次郎)



石田佳央
(谷川清彦)



荻野祐輔
(小森敬文)



久保田秀敏
(狩野良介)



浅野雅博
(西田義雄)



石川湖太郎
(林田清太郎)

■作・演出 マキノノゾミ プロフィール・コメント



静岡県出身。劇作家・脚本家・演出家。同志社大学文学部卒業。劇団M.O.P.主宰（1984年旗揚げ～2010年解散）。

主な受賞として、01年に『赤シャツ』（作）『黒いハンカチーフ』（作・演出）で第36回紀伊國屋演劇賞個人賞、01年に『怒濤』（演出）で第8回読売演劇大賞優秀演出家賞・作品賞、08年に『殿様と私』（作）で第15回読売演劇大賞作品賞、11年に『ローマの休日』（脚本・演出）で第36回菊田一夫演劇賞受賞など。

最近の主な作品に『再びこの地を踏まず－異説・野口英世物語－』（15／脚本）、『真田十勇士』（16／脚本）、『音楽劇「大悪名 The Badboys Last Stand！」』（17／作・演出）、青年座『わが兄の弟－贗作アントン・チェーホフ傳－』（17／作）、『魔界転生』（18／脚本）、グループ・ぱる第24回公演「蜜柑とユウツツ〜茨木のり子異聞〜」（18／演出）など。朝の連続テレビ小説『まんてん』（NHK）、映画『真田十勇士』など映像作品も多数執筆。

この作品の初演は1997年の1月で書いたのは前年の秋ですから、おおよそ24年前のことになります。劇作を始めて今年で31年ですから、かなり初期の作品ということになりますが、いまだに私の代表作といえ、この『東京原子核クラブ』だとよく人からいわれます。

この作品には、戦時中の日本における原子爆弾製造計画についてふれた箇所があります。今読み返してみると、自然科学の発達、ときに後戻りできない人類にとっての閾値を易々と超えてしまう恐怖と、状況次第では私たちはいとも容易に被害者から加害者の地位に転落し得る可能性があること、その重要な事実を忘れずにいることを表明しておくことなどが、（当時はさしたる自覚もないままに）執筆時の主題であったように思われます。

さらに登場人物の多くはしっかりとした良心を持った善人ですが、科学者であれ、芸術家であれ、軍人であれ、誰一人として国家の行いつつある戦争に対してこれを抑止する力を持たず、無力なままで終わります。これらの主題やモチーフは、執筆当時よりも、間違いなく現代の方がより喫緊の、切実性を伴ったものとなっているように思います。歴史となった過去の物語を書いたつもりが、いつのまにか遠くない将来のことを描いているような気がしきりにして、空恐ろしささえ感じます。

この作品に込めた24年前のさまざまな思いを、今回あらためて咀嚼、熟考しながら、新たな俳優たちとともに、再び『東京原子核クラブ』に向かい合いたいと考えています。

■友田晋一郎役 水田航生 コメント



この度友田晋一郎役を演じさせていただきます水田航生です。作・演出のマキノさんとは5年ぶりにご一緒させていただくのですが、5年の時を経ての再会が、マキノさんの代表作とも呼ばれるこの「東京原子核クラブ」ということで、とても身が引き締まる想いと共に光栄の極みに感じております。

23年前の初演の時から風化される事なく伝わる主題、今の世の中を暮らす人達に対して問いかけているメッセージや想いが台本を読ませていただいた時に深く感じました。今の令和を生きる自分の体を通した時、何を思っただう感じるのかということを大切にしつつ、作品の持つメッセージや想いを表現出来るよう、稽古に励んでいきたいとおもいます！

■箕面富佐子役 霧矢大夢 コメント



「風変わりな住人が集う下宿屋・・・」

おそらくは最も風変わりな住人、箕面富佐子役を演じさせていただきます。

非常にミステリアスで神出鬼没、かつ生命力に溢れ、役者としてなかなか掴めなさそうで、逆に、今からとても稽古が楽しみです。

マキノさんの代表作であるというプレッシャーはありますが、令和のこの時代だからこそ伝えられる演劇の熱で、皆さんと創り上げていきたいと思っています。

《本公演のご取材に関する問い合わせ先》

ぴあ株式会社 西田知佳 電話080-1117-9016 Email : h.nishida@pia.co.jp